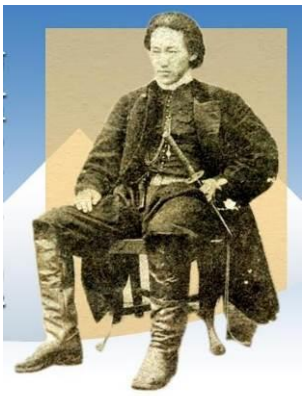
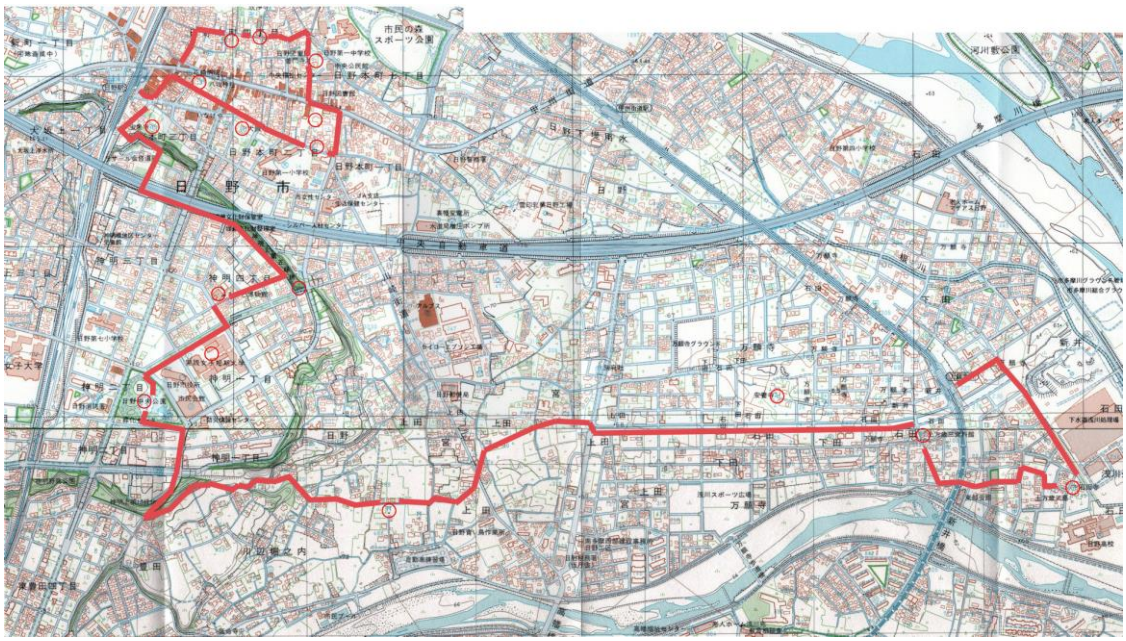
130-1　新選組ゆかりの日野をたずねる(9.0km)



浅川が刻んだ河岸段丘に沿って、鎌倉時代から使われているといわれている道をたどりながら、土方歳三の生まれ故郷日野を目指す。

【道順】

JR 日野駅→八坂神社→大昌寺→佐藤彦五郎新選組資料館→日野宿本陣→唐辛子地蔵→井上源三郎資料館→宝泉寺→神明社・百段階段→新選組のふるさと歴史館→実践女子短期大学→日野中央公園→滝坂→豊田用水（駒形明神跡）→安養寺→土方歳三資料館→石田寺（土方歳三墓）→万願寺駅



【街歩き解説】

・日野駅：多摩の農家の造りを模した木造の駅舎は昭和 12 年に建てられたもの。

・八坂神社

日野の鎮守八坂神社には、昔は大木がうっそうと茂り、昼でも暗かったという。

神社には後に新選組に参加することになる近藤勇や井上源三郎らが奉納した天然理心流の剣術額がある。天然理心流の創始は寛政元年（1789）ころと推定されており、創始者の近藤内蔵之助は静岡県長江の人であったが、二代目三助は戸吹（現八王子)、三代目周助は小山（現町田)、四代目勇が石原（現調布）と多摩地域と縁が深く、名主や豪農、八王子千人同心を中心に農民の間でも慕われていた。

安政 5 年（1858）に奉献された剣術額には日野宿の剣士たち 23 名と近藤（嶋崎）勇、客分として沖田（惣次郎）総司の名が連ねられている（5/11 にしか見られません)。

・大昌寺

大昌寺は浄土宗知恩院末の寺で、江戸開府の前年、慶長 7 年（1602)、八王子の大善寺の開山である中秀助給和尚こと讃誉牛秀（さんよぎゅうしゅう）が隠棲の場所として建立したといわれている。本寺には、新選組を物心でささえた日野宿の名主佐藤彦五郎、その妻であった土方歳三の姉のぶが眠っている。

大昌寺を過ぎると正面に見える学校が日野第一小学校で、その左手に暗渠から顔を出す用水は日野用水、その用水沿いに佐藤彦五郎新選組資料館がある。

・佐藤彦五郎新選組資料館（通常第 1・3 日曜日開館）

日野宿最後の名主、佐藤彦五郎の資料を中心に展示している。

佐藤彦五郎は甲州街道の宿場町だった日野宿で、幕末最後の名主となった人物。と同時に「新選組」が生まれる前、近藤勇や土方歳三、沖田総司など、後の新選組に集った若者たちが、出会うきっかけを作り、また、その強力な支援者だったことで知られている。『佐藤彦五郎新選組資料館』は佐藤彦五郎の子孫の方が、当時やその後に伝承してきた資料を公開する場として開館した資料館である。

・日野宿本陣（休館日　毎週月曜日）

都内に唯一残る本陣の建物である。名主、佐藤彦五郎の屋敷でもあった。

日野宿本陣の正面にある日野図書館は「問屋場跡」です。右手に見えてくるお寺は普門寺である。井上源三郎資料館まで甲州街道北側の地域は「北原」と呼ばれ、用水から引き込まれた小さな流れがあり、多くの家の庭にはお稲荷さんが祀られているのが見え、ちょっとしたタイムスリップする気分が楽しめる所である。

近くの欣浄寺の角にあるお地蔵様は唐辛子地蔵。明和 3（1766）年に建立されたもので、

唐辛子をお供えすれば、眼の病が治るとの言い伝えがあり「病目（めんめ）地蔵」とも呼ばれている。斜め向いに井上源三郎の家の分家出身の沖田林太郎と沖田総司の姉みつ夫婦が一時住んでおり、総司も日野宿に来た時は立ち寄ったといわれている。

日野宿本陣・井上源三郎墓

・井上源三郎資料館（通常第 1・3 日曜日開館　5 月 10 日（土）・11 日（日）開館）

新選組六番隊長井上源三郎の生家では残された史料を公開している。

佐藤彦五郎に天然理心流を紹介したのは井上源三郎の兄・井上松五郎と考えられている。松五郎は家を継いで八王子千人同心となって多くの記録を残し、源三郎は新選組六番隊隊長として活躍した。

その生家の、資料が発見された土蔵を改装したのが資料館である。松五郎の「文久三年御上洛御供旅記録」、歳三書状、源三郎書状、八王子千人同心資料、近藤勇が松五郎に贈った名刀「大和守源秀国」などの資料が展示されている。

・宝泉寺

井上源三郎の墓と顕彰碑が立てられている。

宝泉寺墓地の奥まった所に井上家の墓所がある。墓所内には新選組六番隊長・副長助勤井上源三郎（戒名：誠願元忠居士）の墓碑が建てられている。

墓誌には、源三郎と共に兄松五郎（戒名：清松軒仁口智勇居士）、源三郎の 死をみとった泰助（戒名：泰岳宗保居士）の名も見られる。

日野の街中を通る甲州街道は江戸時代からの道筋、旧道は左折して宝泉寺の前を通り、少し坂を上がったところにあるのが飯綱権現社と坂下地蔵である。西の地蔵とも呼ばれ、ここまでが日野宿であった。旧道は現在、中央線により横切ることができないが、そのまま八王子方面へと向かっている。

神明上第 5 緑地の始まりの矢の山公園からは、段丘下に広がる日野の町が見える。そして同緑地の終わりには、日野段丘を上る恐ろしいほど急な百段階段（111 段？）が、その高さを表現している。

百段階段・土方歳三墓

・新選組のふるさと歴史館（休館日 毎週月曜日）

新選組を中心に幕末に焦点を合わせた歴史館である。

幕末、土方歳三、井上源三郎、近藤勇、沖田総司、彼らが集ったのが日野である。ここで、武術に励んだ彼らは、後に新選組となり、歴史にその名を刻み込み。日野市立「新選組のふるさと歴史館」では、新選組の歴史を中心に、さまざまな企画展が催されている。

また歴史館の分館である「日野宿本陣」では、土方歳三、井上源三郎、近藤勇、沖田総司らが集ったころの姿そのままで残され、新選組誕生当時の気配を感じることができる。中央高速道路を渡るあたりには、日野特産のブルーベリーの畑がある。

・実践女子短期大学

市役所と並ぶ実践女子短期大学は人気ドラマ「ごくせん」のロケが行われた密かな人気の場所、学園内には放映シーンとともに撮影スポットが表示されているという。また、正門前の道は桜並木が続き、中央公園とともに花見時期には多くの人を集めている。

・土方歳三資料館（通常第 1・3 日曜日 12～16 時開館、5 月は、2 日(金)、3 日(土)、4 日(日)、5 日(月/祝)、9 日(金)、10 日(土)、11 日(日)、18 日(日)開館）

土方歳三の生家で子孫の方が開いている資料館である。

歳三の愛刀「和泉守兼定」や鎖帷子などの武具、写真や手紙などが展示されており、歳三の兄から数えて五代目・六代目の子孫が直接解説をしてくれる。

・石田寺

「せきでんじ」と読み、ここに土方歳三の墓所がある。宗派は真言宗、高幡山金剛寺の末寺で、あたりは新選組副局長土方歳三が生まれた石田村（いしだむら）である。

石田寺の境内に入ってまずは目を引かれるのは、日野市の天然記念物にも指定されてい

るカヤの木。その樹齢は400年とも600年ともいわれる。
　墓所に進むと右手に「土方歳三義豊之碑」が立てられている。これは、歳三の親代わりでもあり家督を継いだ兄喜六の曾孫にあたる土方康氏が昭和43年（1968）に明治100年を記念して建立したものである。土方歳三の墓所はさらに進んだ所にあり、戒名は「歳進院殿誠山義豊大居士」とある。
　5月11日の命日以外でも年間を通して、献花の絶えることはない。

●八王子千人同心
　徳川家康が関東入国とともに、武蔵・甲斐の国境の甲州街道警備を目的に設置された郷士身分の集団で、当初は五百人同心として設置されたが、慶長4年（1599年）には同心を倍に増やし八王子千人同心として旗本身分の八王子千人頭の下に十組・千人で組織され、幕末まで存続した。同心は平時農耕に従事し、年貢も納める半士半農であった。（平同心は任務時だけ幕府同心の身分だった可能性がある。）
　任務は当初、武蔵・甲斐国境の甲州口の警備と治安維持であったが、治安が安定した17世紀半ばからは、日光東照宮を警備する日光勤番が主な仕事となり、19世紀に入ると寛政12年には集団で北海道・胆振の勇払などに移住して蝦夷地の開拓に携わり苫小牧市の基礎を築いたり、文人として、幕府の学問所であった、昌平坂学問所で新編武蔵風土記稿の執筆に携わる者、蘭学を学んだ医師や思想家、新撰組の剣術として知られる天然理心流の剣士などを輩出した。

130-2　新選組ゆかりの日野をたずねる(7.0km)
【道順】
　多摩モノレール万願寺→石田寺（土方歳三墓像）→土方歳三資料館→多摩モノレール万願寺→多摩モノレール甲州街道→佐藤彦五郎新選組資料館→日野宿本陣→唐辛子地蔵→井上源三郎資料館→八坂神社→大昌寺→宝泉寺→矢の山公園→神明社・百段階段→新選組のふるさと歴史館→実践女子短期大学→日野中央公園→日野市役所前バス停→高幡不動→京王線高幡不動駅

130-3　新選組ゆかりの日野をたずねる(9.0km)
【道順】
　JR日野駅→八坂神社→大昌寺→佐藤彦五郎新選組資料館→日野宿本陣→唐辛子地蔵→井上源三郎資料館→宝泉寺→矢の山公園→神明社・百段階段→新選組のふるさと歴史館→実践女子短期大学→日野中央公園→滝坂→豊田用水・善生寺（大仏）→山王下公園・黒川清流公園（湧水）・多摩平の森→中央図書館（湧水）→JR豊田駅